

三代依存症について

竹野 陸 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 高橋 正行

キーワード：薬物、アルコール、たばこ

1. はじめに

依存症により、健康被害・家庭崩壊・犯罪・失職などにつながる大きな問題である。近年では、様々なたばこ対策が講じられてきた。能動喫煙によって、がん死亡 7.7 万人、循環器疾患死亡 3.3 万人、呼吸器系疾患死亡 1.8 万人で、合計 12.9 万人が死亡しており、この値は年間の全死亡者数の約 1 割に相当すると推定されている。またアルコール依存の問題も大きく、家庭内暴力、失職による困窮、うつ病などを抱える事も多い。厚生労働省研究班の推進では、依存症の疑いのある人は 4400 万人、治療が必要な人は 80 万人。厚労省の別の推進では継続的に治療している患者は 4 万人前後。治療に結びついていない人が多い。薬物使用は使用物質によって犯罪行為である。薬物乱用の危険性を理解しながらも、乱用をしてしまう青少年が、一定の割合で存在することも事実であり一次予防に加え、教育現場での二次予防の必要性についても言及した。そこで本研究では、三大依存症が及ぼす影響について研究を行った。

2. 研究方法

- ① 文献調査：受動喫煙ファクトシート、アルコールに関する基礎組織
- ② アンケート調査：対象は、薬物依存症の自助団体、アルコール依存の自助団体、京都南区の禁煙外来

3. 結果と考察

今回は、タバコ、アルコール、薬物の依存性について研究を行ったが、どの依存性についても家庭、身体、仕事への悪影響が見られ

た。その中でも、薬物、アルコールについては予想した通り、家庭崩壊や、身体の崩壊へと繋がっていた。タバコに関しては、たんが出にくくなった、という回答や息切れがするようになった、という回答が目立ち、家庭への影響や仕事への影響が比較的小さい事が分かった。またアンケート結果から、依存性を治癒できたとしても再び依存性に陥ってしまうケースが多かった。

4. 結論

今回の研究によって依存症により、身体の崩壊、仕事への悪影響、家庭への悪影響が少なからずあることが分かった。中でも、薬物の再使用率が高い。

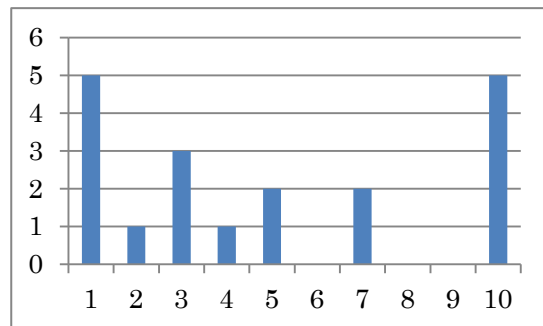


図1 何回目薬物をやめられたか

引用・参考文献

APACT 2013 Tobacco Control in Japan

受動喫煙ファクトシート 2 敷地内完全禁煙が必要な理由 NPO 法人 日本禁煙学会 (理事長 作田) 2010 年

アルコールに関する基礎知識 ～「依存性」に関わっていただく全ての方々に～ 日本アルコール関連問題学会会員 社会福祉主事 井上源太郎